

新刊

『七月の波をつかまえて』

ポール・モーシャー/作

代田亜香子/訳 岩波書店

¥933/モ

#夏休み

#友情



父親が家を出て行って以来、世界の終わりのことばかり考えて、あらゆる物事が怖くなってしまった12歳のジュイエ。母の仕事の都合で7月を海辺の町で過ごすことになり、サーファーガールのサマーと出会う。かけがえのない友達になった2人の特別な1カ月間の物語。

品川区立二葉図書館

〒142-0043 品川区二葉1-4-25 TEL:3782-2036 FAX:3782-9430

●開館時間●

月曜～土曜日 9:00～20:00

●休館日●

第2木曜日 年末年始

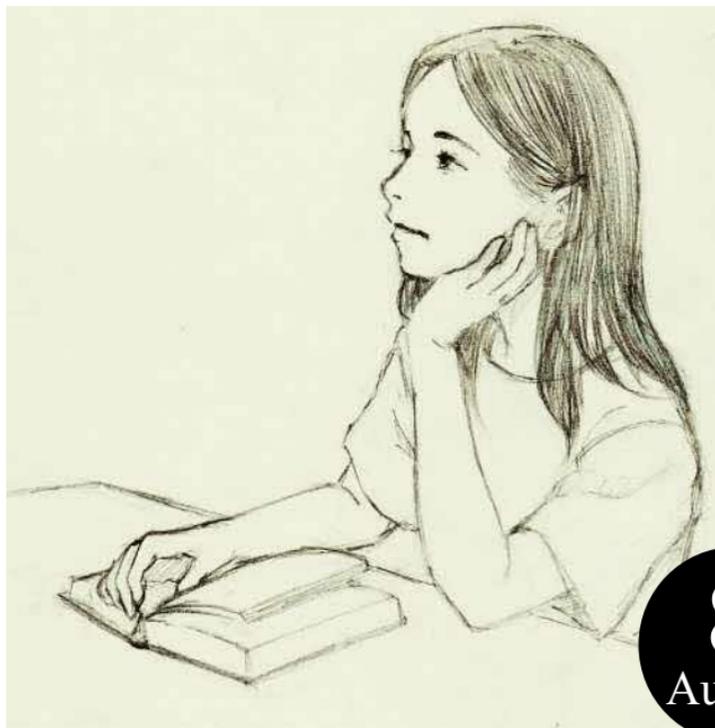
特別整理休館日

発行:2024年8月

ティーンズブックリスト

Green

今月のテーマ：戦争と平和



8

August

8月は学校もお休みになり、心躍る毎日をご過ごしているのではないのでしょうか。ですが、8月は過去の戦争に関するニュースも耳にする時期だと思
います。そこで8月のGreenでは戦争の本にスポットを当ててみました。戦争とは何か、平和とは何か、みなさんが考える1冊に巡り合えたら、それが
平和への第一歩へと繋がることを願っています。



『パンに書かれた言葉』

くつきしょう
朽木 祥 / 作

小学館

¥913/ク



#ナチス
#ヒロシマ

中学2年生の光はイタリア人の母と日本人の父を持つ。2011年の春休み、ひとりで母の故郷、北イタリアに行き、祖母から第二次大戦末期に起きたことを聞く。そして夏休み、今度はひとりで父の故郷、広島へ行き、1945年8月6日に広島で起きたことを祖父の口から聞くことになる。

ナチスに占領された村での出来事、原子爆弾が落とされた広島の様子など、どこか遠い世界で起きたことのように感じてしまう現代ですが、この本ではそうした出来事が中学生の女の子の視点で分かりやすく伝えられています。戦争は終戦を迎えたとしても、人々の心からは消えることはないと感じさせられた1冊です。

『トンネルの森1945』

角野栄子 / 著

KADOKAWA

¥913/カ



#疎開

『平和のバトン』

広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶』

ゆがりまさずみ
弓狩匡純 / 著

広島平和記念資料館 / 協力

くもん出版

¥319/ユ



#被爆体験

『戦火の馬』

マイケル・モーパール / 著
みかむ
佐藤見果夢 / 訳

評論社

¥933/モ



#第一次世界大戦

『戦争は女の顔をしていない1』

小梅けいと / 作画

スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ / 原作
はやみらせんじん
速水螺旋人 / 監修

KADOKAWA

¥726/コ-1



#従軍女性